

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

ホームページ
www.kodomo-
iin.com



新年が開けて1か月が経ちました。何かと落ち着かない毎日を送っていたように思います。

ゆっくり、どっしり構えて物事に対処したいと思いますが、今月はどうなるでしょうか。

先日よりご案内して

いますが、当院の予約

システムが2月から変

更されます。「順番予約」

を当日前、あらかじめお取りいただき

き、その順番にそって診療していき

ます。

「発熱外来」と「一般外来」とに

分けています。当てはまる方の予約

を取ってください。ネット上で診察

2月より、外来診療の予約制を再開いたします。

以前の「時間予約」ではなく、「順番予約」です。

ネットで順番予約をしてから来院してください。



順の進み方が分かりますので、ご自身の順番が近づいたらご来院ください。

なお「発熱外来」では、先に検査を実施することがありますので、時間

間に余裕を持って来ててください。

当院では、これまで「時間予約」のシステムを採

用していましたが、新型

コロナ禍で「発熱外来」

を行う必要になった時点で、時間予

約の運営ができなくなりました(診

察前に検査があり、予約時間通りの

診療が不可能に。このことについて

クレームもいただきました。

予約システムの会社に要望し、「順

感染症情報

インフルエンザが大きな流行になっています。今シーズンは秋から大きな流行になりました。コロナ禍でほとんど発生がなかったのですが、その分かかっていない方が多くなり、また通常の日常生活に戻っているために大規模な流行になったようです。年末年始で下火に向かっていたのですが、3学期が始まり、また流行が拡大しています。これまではA型でしたが、少しずつB型が増えているようです。引き続き注意をお願いします。

新型コロナウイルス感染症の発生も増加し続けています。すでに第10波だとする意見があり、現場での状況からはやはりそうだと思います。今回もまた新しい変異株による流行のようです。感染予防の対応はインフルエンザも新型コロナも変わりありません。「土砂降りの時には傘をさす」ように、今は流行の真っ只中ですので、人混みではマスク着用も必要でしょう。

溶連菌感染症が増加しました。咽頭痛と発熱が主な症状です。抗菌薬による治療が必要です。

また、同様症状のアデノウイルス性咽頭炎の発生もあります。

感染性胃腸炎の発生もやや多くなりました。多くはウイルス感染症で、園や家庭内で集団発生することがあります。時に食中毒の原因になっていることがあります。乳幼児は脱水や低血糖を起こしやすく、ぐったりしている場合は早急な対応が必要です。

番予約」が可能になり、さらに2つに分けての予約設定ができるように構築してもらいました。実はこの会社では、当院が全国で初めて採用するものです。スムーズに運営できるよう、皆さんのご協力をお願い致します。

今月の予定

臨時休診のご案内

2月24日(土)は休診にさせていただきます。前後3連休になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

院長・副院長出務

上越市夜間診療所勤務 21日(副院長)
上越有線放送「健康ライフ」20日
FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～
上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)
医院ホームページ内

災害への十分な備えを

元日の夕方、能登半島をマグネチュード7.6の大きな地震が襲いました。死者数が2百名以上、被害にあった住宅が4万戸以上と、大きな被害を出しました。

被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。また1日も早い復興を願っています。

陸の孤島を化した現地には救援が遅れ、救えるはずの命を救えませんでした。復旧も遅れ、1か月が経った現在でも、多数の方々が不便な避難生活を余儀なくされています。

こういった災害のたびにいつも思うことなのですが、救助や避難の備えをあらかじめとって整備しておくことができないのかと。そして、劣悪な状況に置かれる避難された方々の様子を見るにつけ、貧困な政治や行政に怒りを覚えてしまいます。

●避難所のT・K・B

トイレ、キッチン、ベッドをしつかり提供することが、避難民の健康

にとって必要なことです。

日本では、令和の現在でも「雑魚寝」であり、食事は保存食やレトルトのものが中心、トイレは簡易トイレ。これでは健康どころか、生命の危険も生じます。事実、避難後に健康状態が悪化して起きる「災害関連死」が多数発生し、問題になっています。

●イタリアの例

地震国のイタリアでは、国を挙げての体制が整備されています。

災害発生の当日に自治体が所有するキッチンカーが入り、調理したてのパスタなどが提供されます。数日後には肉料理やワインなども用意されるようです。

各自治体が大型のキッチンカーを所有し、被災した地域の周辺から駆けつける仕組みができています。冷暖房のない体育館の床での雑魚寝・健康に良いはずがありません。プライバシーもあつたものじゃありません。それを避けようとして車中泊するとエコノミークラス症候群（血栓症）を起こしやすいこと

も、周知の事実です。

イタリアでは、ベッドと大型テント（冷暖房つき！）が各家庭に配られます。

トイレに至っては、設置される簡易トイレの多くは和式であり、使用ぶらぐ、その絶対数も不足です。水が流れず、衛生状態が悪化し、感染症の流行も懸念されます。

これもイタリアでは、洋式トイレ、手洗いを完備した「トイレトレーラー」を各自治体が保有し、被災地に「出動」することになっています。

今回の能登半島地震では数台（涙）が被災地に向かったという報道がありました。良いニュースではあるのですが、数が少なすぎます。

●日本は災害対策の後進国

日本がどうしてこんな惨めな状況なのか。困ったものです。

お金がないわけではないですよ。何しろ国防費を倍にしようとするくらいなのですから（怒）。その一部を使えば、有効な対策はすぐできそうです。

災害対応の司令塔になるべき組織

がないのも問題です。緊急に、省庁の枠を超えて、機動的に対応する、ある意味で堅強で、別の意味では柔軟な組織が必要です。そこに権限と予算を集中させる必要があります。きつとこれは、日本の政府が一番苦手なことなんだと思いますが、でもそれではいけません。

災害救助は自助でも互助でもありません。国や自治体が力を尽くすべき「公助」です。好きで被災者になつたわけでもなく、自身に責任があるわけでもありません。手厚い公的な支援は不可欠です。

もう一つ指摘しなければいけないのは、「日本人の我慢強さ」が禍（わざわい）していることです。「みんなが大変な思いをしている時に贅言は言えない」「多少の不便さは我慢しなくては」・そんなことを被災者に思わせないような、積極的な支援が必要です。

感謝の気持ちは大切ですが、声に出して要望しましょう。そして、被災者の声を次の災害対策に生かされるような仕組み作りが求められると思います。